ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-3(沢左岸袖部)	調査位置				北　緯	36 ° 50 ’ 57.9900 ”
発 注 機 関	栃木県　大田原土木事務所		調査期間	2008-08-02 ～ 2008-08-05		東　経	140 ° 11 ’ 54.4600 ”
調 査 業 者 名		主任技師	現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者	ボーリング責任者	
孔 口 標 高	315.39 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 15.00 °
総 掘 進 長	9.00 m	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポ ン プ		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
					表土 (SF)	褐灰		中位	礫混り砂質シルトから成る。土は含水・粘性共に中位で、軟質な状態にある。φ10～30mmの角礫を主体に最大φ100mm程を混入する。
1	314.39	1.00	1.00		礫混り粘土 (CH-G)	暗茶褐		軟らかい	火山灰質の粘性土であり、全体に細砂分を含有している。含水・粘性共に中位で軟質である。 局所で未腐植物を混入する。
2								中位	礫はφ10～30mmの角礫を主体に最大φ50～80mm程を点在する。 GL-2.7m以深、粘性の急激な上昇を感じる。
3						灰茶		軟らかい	
4								中位	
5	309.79	4.60	5.60						
6					粘土混り砂礫 (GS-C)	暗茶褐	密な		GL-6mに染み出し水を確認。 礫はφ5～40mmの角礫を主体とし、最大φ70mm程を点在する。 礫間は細～中砂分と多量の粘土分でやや緩く埋められる。 GL-7.5m以深、充填度合いを増し、孔壁の安定が伺える。
7									
8	307.49	2.30	7.90		頁岩 (Sh)	灰			岩頭-10cm間は角礫状コアで採取され、風化・変質による岩片の脆さをも感じる。以深、母岩自体は概ね新鮮で、コアは片状～3cm内外の短柱状を主体に採取される。 亀裂は斜状を主にやや多いが、開口性のものは認められず、密着性に優れている。 コア採取率=98～100%。 RQD=0%。 最大コア長=5cm。 岩盤等級区分=CL級。
9	306.39	1.10	9.00						

地層岩体区分：

孔内水位 (m)／測定月日：08/04 6.00

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1	3	5／30	5
1.45					
2.15	1	1	1	3／30	3
2.45					
3.15	1	2	2	5／30	5
3.45					
4.15	1	2	1	4／30	4
4.45					
5.15	1	2	2	5／30	5
5.45					
6.15	13	11	11	35／30	35
6.45					
7.15	10	11	11	32／30	32
7.45	50／0			50／0	>50
8.00					
8.00	50／0			50／0	>50
9.00					
9.00					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験

掘進月日：08/02　08/04　08/05